

## 事業成長に貢献する人事システムとして活用

Workdayの導入により、人事データが一元管理されスピーディな意思決定が可能になり、ミッションに向かって質、量的にも今まで以上に成長に貢献しています。

### 課題

法人向けクラウド名刺管理サービス「Sansan」と名刺アプリ「Eight」を提供するSansan株式会社。「出会いからイノベーションを生み出す」をミッションに事業を展開し、近年は請求書のオンライン受領サービス「Bill One」や、法人向けセミナー管理システム「Sansan Seminar Manager」をはじめとするイベントテック事業にもビジネス領域を拡大しています。

同社では、3年で社員数が倍になるほどのスピードで人材採用を強化しています。採用した人材のオンボーディングとして、会社のミッション、バリューズをどう浸透させるかという人事面での課題がありました。また、組織が拡大し人材が増えると、人事面で社内の暗黙知が増えていく傾向にあり、これらの情報をデータとして蓄積していく必要がありました。一方、IT部門はビジネスのスピードにあわせてシステムを整備していくことが求められます。業務にあわせて最適なシステムを導入し、そのデータを他システムと連携させるためには、整合性のある人事マスターデータが必要不可欠でした。



人事情報は企業の重要な資産なので、細かい粒度で捉えていく必要があります。システム、人事の両方のトップがコミットして、人事のDXを推進していくことになりました。

**本山 祐希 氏**  
CIO兼コーポレートシステム部部长

## Workdayを導入した理由

人事には、採用、入社、配属・異動、労務管理、オンボーディング、育成、退職など、さまざまな業務があります。社員の人事上のライフサイクルにあわせて情報を更新しつつ、過去の履歴も蓄積できる人事システムを検討しました。複数の製品を検討する中で、人事データを一気通貫で管理できるWorkdayの強みに惹かれて導入を決めました。Workdayでは、人事に関するイベントが発生するたびにデータが蓄積されていきますし、他のシステムとの連携のしやすさという面でも優位性がありました。もう一つ、Workdayの利点として評価したことは、全世界共通で同じバージョンが利用されていることです。運用中の企業からのフィードバックを踏まえてバージョンアップされているため、人事に必要な機能がすべてそろっており、不足がありません。しかも、自社では思いがなかつたような機能もあり、人事業務をさらに充実させることができると考えました。導入にあたっては、人事部がプロジェクトの中心になって、IT部門、人事部門からメンバーを集めて推進しました。2020年2月から要件定義、業務プロセスの見直しを開始しましたが、ちょうどコロナ禍だったこともあり、プロジェクトミーティングはオンラインで行い、5ヶ月で実運用までこぎつけました。



**sansan**

### Overview

- ・ 業種: クラウド名刺管理サービスの企画・開発・販売
- ・ 本社所在地: 東京都渋谷区神宮前5-52-2 青山オーパビル13F
- ・ 従業員数: 728名  
(2020年8月末時点)

### 利点

Workdayは、人事管理のためのツールとして設計がしっかりしており、幅広い要件を定義できるので、導入において不便はありませんでした。Sansanの業務にあわせるためのカスタマイズなどは一切しておらず、導入設定においてはIT部門の支援は想定より大幅に少なく、人事部門中心でプロジェクトを完了できました。IT部門では、他システムとの連携に重点をおいて作業し、スムーズな連携を実現しました。

- ・ 導入を決定してから5ヶ月で本番運用に
- ・ 人事に関するイベントデータを蓄積できるように
- ・ 人事データのマスターデータとして他のシステムと連携

### Workday Applications

- ・ Human Capital Management

## 詳細 / 結果

Sansanでは、2020年7月よりWorkdayの運用を開始しました。同社では新しいシステムを導入するにあたって、ビジネスのスピードを上げることを目指しています。

- 人事管理業務の効率化とデータの利活用
- 他システムとの柔軟な連携
- 人事管理以上のデータを活用できるようにしたい

### 人事管理業務の効率化とデータの利活用

Workday導入前は、採用、入社、異動、退職など、人事に関するイベントが発生するたびに、さまざまな事務作業が発生していました。導入後は、Workdayのデータを更新すれば、関連するデータも自動的にアップデートされるようになり、事務作業にかかる時間を圧縮することができました。なお、一部の業務ではWorkdayのデータと連携して、承認のワークフローシステムを活用しています。ワークフローもほぼ自動化できるようになり、ここでも業務効率化が実現できています。また、現在の人事データだけでなく、過去のデータを時系列に蓄積できるようになったことで、採用からオンボーディング、育成、さらにはエンゲージメントまでデータで管理できるようになりました。社員の強みに合わせた人材育成など、データ化しなければ気づくことができないような視点での成長支援にもつながります。さらに、ダッシュボードを使えば、会社全体でどんな人材がいて、各部門にどんなスキルを持っている人がいるのか、人材の偏りはないか、といった俯瞰的な視点で人材情報を見ることができます。

### 他システムとの柔軟な連携

Workdayの人事データをマスターデータとして、他のシステムとの連携を行っており、レポート作成の一部を自動化するなど、業務効率化が行われています。また、異動やプロジェクトメンバーの交代などがあったときには、現場のエンジニアがWorkdayとAPI連携して、名簿作成や工数管理に使う場合もあります。ITに強い人材が多いため、人事部以外の現場レベルでAPI連携して、業務の自動化、効率化が進められています。またID管理のためのセキュリティツールとの連携を進めています。社員の役職や権限によって使えるサービスを自動的に制御するなど、ID管理とWorkdayを組み合わせ、セキュリティと利便性を両立して行きます。IT部門では、Workdayプラットフォーム上で、強力なHRソリューションを実現したいと考えています。どのような活用ができるのかは未知数ですが、他の領域での活用を含めいろいろな可能性を考え、IT部門で開発をして発展させていきたいと、大きく期待をしています。

### 人事管理以上のデータを活用できるようにしたい

Workday HCMの運用を開始して、人事業務システムの土台は構築できました。今後は勤怠管理、ラーニングなどの機能も活用していく予定で、人事管理業務全体をWorkdayで実現したいと考えています。今後Workdayに登録できるデータを人事関連以外のデータにも拡張することも検討しています。Sansanが掲げているバリューズの中には、「強みを活かし、成果を出す」というものがあり、社員の強みを言語化する取り組みをすでに実施しています。こうしたデータをWorkdayに蓄積することはもちろん、他のデータとも掛け合わせて、より社員の強みを探り、伸ばすためにも使っていききたいとのことでした。

“

人事はバックオフィスではなく、事業成長を最大化するためのエンジンでありたいと思っています。

大間 祐太 氏  
取締役CHRO / 人事部部長

“

人の異動が頻繁に発生する組織のため、事務作業の効率化はもちろん、過去にどういう経歴をたどったのか、時系列でデータを管理することで、組織の成長にもつながります。

“

Sansanがミッションドリブンの会社であることは今後も変わりません。ミッションを達成するために、人事部として人材データを経営の視点からも活用できるようにしたいです。

田中 洋一 氏  
人事部Employee Successグループ  
マネージャー兼戦略人事グループ